

## 第 29 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和 5 年 6 月 23 日(金)に、第 29 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、MSW、ケアマネジャーなど参加され合計 66 名の参加者となりました。

当院の緩和ケアセンター山縣助教より開会の挨拶があり、各演者より以下の事例提示があった後、シンポジウム形式で 3 名の先生を中心に討論を行いました。

### 事例:「家族背景が複雑な終末期患者が希望通り自宅で最期まで過ごせた一例 ～在宅看取りを支える～」

やまもとクリニック 院長 山本 光太郎 先生  
サンキウエルビィ 訪問看護ステーション宇部 野村 富貴枝 先生  
山口大学医学部附属病院 A棟9階 看護師 加藤 真帆 先生

家族背景が複雑である50歳代の治療不能の肺がん患者に対して、入院中から在宅療養中に多職種が支え、最期まで希望する在宅で過ごすことができた事例を振り返りました。

シンポジウムでは、「思いの表出が少ない患者に対し、できるだけ早期に思いを把握するためのかわり方」、「家族間の関係性の構築のために、医療者が行うべきこと」、について検討しました。参加者の方から以下の通り、たくさんのご意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

- ・「在宅生活するのは大変ですが、地域医療支援者の協力で思い残すことなく最期を迎える現場を知ることができて良かった」
- ・「地域の医療看護の可能性の広さを感じました。その中で病院看護師の役割を考え、やっていくべき事が考えられました」
- ・「他職種の方々のお話が聞いて本当に参考になりました。ありがとうございました。」

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》

